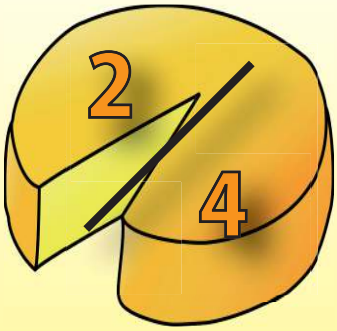
JA いまかね

今金町農業協同組合

2015
3
vol.473



ＪＡ今金町女性部
乳製品料理講習会　開催

軟白長ネギ振興会 レクリエーション

軟白長ネギ振興会は2月14日、八束小学校にてレクリエーションを実施しました。

当日は16名の会員が参加し、「フロアカーリング」が行われました。

「フロアカーリング」とは、「カーリング」のルールを基に、北海道新得町で開発された競技です。木製のターゲットを的にキャスター付きの木製のフロッカーを送球し、得点を競うもので、ルールも簡単。だれでも手軽に楽しめるスポーツです。中には経験者という方もいれば、全く初めてという方も。初めは力加減も難しそうでしたが、競技が進むにつれて上達し、楽しそうに競技に取り組んでいました。

「フロアカーリング」の用具は総合体育館にて貸し出しているので、興味を持った方は是非取り組んでみてはいかがですか？

▲水口会長による開会の挨拶

▲フロアカーリングを楽しむ会員達

良質米・良質小麦 安定生産技術講習会

JA今金町大会議室にて2月25日、米麦改良協会主催の「良質米・良質小麦安定生産技術講習会」を開催しました。

ホクレン農産事業本部農産部麦類課　工藤陽貴氏、ホクレン函館支所米穀課課長　湯佐友広氏、北海道農政部生産振興局技術普及課道南農業試験場技術普及室主査　石岡康彦氏、檜山農業改良普及センター立野正純氏を講師として招き、「米穀・麦をめぐる情勢について」や「道南地域におけるきたほなみの栽培方法について」、「良質米の安定生産に向けた栽培技術について」の講演を行いました。

当日は町内外よりたくさんの方が参加し、米の販売状況や今後の販売戦略についてなど普段はなかなか耳にすることのない話題に参加した皆さんは興味津々、たくさんの質問が出ました。

平成27年度は例年より積雪も少なく、雪解けが早く進んでいます。農作業も少しずつ始まりますが、農作業事故に遭わぬよう注意しましょう。また、冬の間に蓄えた知識を基に、今年度も安全・安心で良質な農産物を消費者に届けられるよう心がけ、豊穣の秋を迎えましょう。

▲たくさんの方が受講しました

青年部学習会開催

青年部は1月27日、株式会社ニコン・トリンブル熊野憲太郎氏、株式会社ヰセキ北海道松山肇寛課長、前川芳広所長を講師に迎え、「GPSを利用した新しい農作業体系について」と題して講習会を開催しました。

GPSを農作業に取り入れることとなった経緯は、生産者より「作業効率を上げることはできないか?」、「資材の無駄をなくせないか?」などの農業者の要望に応えられるように開発されています。

講習終了後、シミュレーターを使ったGPS体験やGPSを搭載した実演機での体験をしました。部員たちも将来的に導入をするかもしれないということで、興味津々。質疑応答がたくさんあり、活気ある学習会となりました。

▲説明を受ける部員たち

▲シミュレーターでGPS体験

女性部 乳製品料理講習会

JA今金町女性部は2月4日、町民センターにて乳製品料理講習会を開催しました。

この取組は、乳製品の需要の拡大と啓蒙普及を図ることを目的に、毎年行われています。

当日はチーズやバター、生クリームなどの乳製品を使用して計7種類の料理を調理し、皆で楽しく試食しました。是非自宅でもご家族の方に振舞ってください!

▲調理する女性部の皆さん

JA今金町女性部 夢工房 加工販売

JA今金町女性部　夢工房は(代表　岸　幸子)がAコープ今金店で加工品の販売会を行いました。

この販売会は、もぎたて市販売のために部員が作付した農産物を加工しており、地産地消を推進することを目的に毎年行われています。

当日はたくさんのお客様にお買い求めいただき、大盛況で終えることができました。

▲お客様で賑わう販売会

平成27年の米づくりに向けて

近年、気象変動は大きく、天候不順は米の品質や農作業に大きく影響している。このことから、初期生育を良好にし出穂前の乾物生産を高めるとともに、適性籾数を確保した登熟の良い米作りが必要です。

（1）水田を乾かす
～溝切りは効果大

地温を高め土壌窒素を早期に発現させることは、稲の養分蓄積を高め、生育を促すことにつながります。

溝切りの施工などで停滞水を排除し早く乾くように努めましょう。また、融雪の遅れやすい場所は、融雪材の散布や心土破砕を組み合わせることが効果的です。

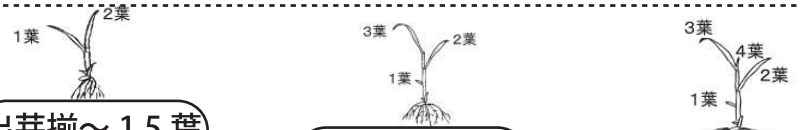
（2）穂揃いを良くする

①早期異常出穂の防止

早期異常出穂は、通常の葉数を確保しないうちに幼穂ができ、早期に主茎のみが出穂し、分げつの発生が減少する現象で早生品種などの感温性の高い品種に見られます。育苗後半（2.5葉以降）の高温管理（25℃以上）で発生しやすい。

また、成苗ポット苗はマット苗よりも高温になりやすいので、育苗後期の温度管理は特に注意するとともに、育苗日数は30～35日程度とし作業計画を立てましょう。

水稲育苗の要点（中苗マット）



区分	播種～出芽揃	出芽揃～1.5葉	1.5～3.0葉	3.0葉～移植
適温	32℃	20～25℃	20℃ 夜温を下げすぎないように注意	18～20℃ 外気温に慣らす。夜間は10℃以下にしない
水分	種籾が乾かないよう十分灌水する	床土表面が乾くまで節水	葉がまかないよう注意	過湿より過乾に注意

・好天時の午前中に灌水を行う。午後からの灌水はしない
・早朝、葉先に水滴の付着が少なくなったときに灌水する

保温に努め、出芽をそろえましょう。

根の伸長を促すため、過灌水に注意しましょう。中苗では追肥は1.5葉期行い、「タチガレエース液剤」をかん注することで発根量が増大します。

2.5葉期以降の高温管理は早期異常出穂が出やすいので注意しましょう。中苗では2.5葉期に追肥することで苗質の向上が期待できます。

35日の育苗期間を越える場合は、老化を防ぐため3回目の追肥を行います。追肥時期は移植の3～5日前を目安にしてください。

②適期移植～目標は5月25日までに植える

品質・食味・収量を確保するためには、安全出穂期間内に出穂させることが基本です。

移植から出穂までに簡易有効積算温度1000℃以上必要なので、5月25日まで移植を終わらせることが重要です。

③栽培密度の確保（80株／3.3㎡以上）

栽植密度を高めること（株間と株間の距離は12．5㎝以下）は、生育の揃った茎数を早期に確保し、遅れ穂（幼穂形成期以降の分げつ）が少なく、穂揃いは良くなります。そのため、登熟は良好で品質・食味・収量は高まります。

④側条施肥の導入

栽植密度を高めるだけでは不十分な場合、側条施肥と組み合わせ、初期生育を促進させることが必要です。側条施肥は、移植された苗の横3㎝深さ5㎝の位置に施肥するので、速効的で肥料の吸収効率が高く、初期茎数の発生促進効果も高い。特に、側条による肥料は6月中に吸収されるので、7月以降の遅れ穂の発生が少なく、穂揃い性は向上する。また、側条施肥は施肥効率が高く、全層施肥に比べて10～20％減肥が可能です。

（3）無理のない施肥で中位な稲づくり
～多肥は過剰籾となり死米など多くする

多肥栽培や安易な追肥は、過剰な籾数となりやすい。そのため、全ての籾にデンプンが十分分配されないうちに気温が下がり、登熟が進まず死米や未熟粒になりやすい。無理のない窒素施肥量と適正な籾数確保（32，000～34，000粒／㎡程度）で品質を高めることが大切です。

（4）深水管理の実施
～不稔防止と過剰分げつ抑制で適正な籾数

4年連続の豊作となりましたが、冷害の危険性がなくなったわけではありません。幼穂形成期から約20日間は稲一生の中で最も寒さに弱く、不稔発生と密接な関係があります。

深水の保温力で寒さから幼穂を守り稔実性を高めることが重要です。また、前歴期間の深水は、幼形期以降に発生する過剰分げつを抑制し、有効茎歩合を高める効果も同時に認められる。過剰分げつの場合には、水稲の生育コントロールにも結びつきます。

深水管理の実施には、20㎝程度の深水管理ができる高畦が必要です。畔塗り機を活用し畦の補修を行うなど万全の準備を図ってください。

『きたほなみ』の栽培法

H26年産の秋まき小麦を振り返って

- 越冬前の生育、越冬状況とも良く、起生期の茎数が確保できた
- 4月中旬～6月上旬まで高温・少雨で茎数・穂数が平年より低下したが、一穂粒数が増加
- 6月中旬の降雨と登熟期間が延びた（41→43日間）ことで製品歩留まりが向上
- 檜山管内は製品収量402kg／10a（JA聞き取り）品質も良好

「きたほなみ」の栽培ポイント

- 4年輪作の実施
- 土壌PHの改善と排水対策・融雪促進の実施
- 適期播種（9月下旬）と適性播種量（5～8kg）で越冬前の生育量をしっかり確保（葉数5.5葉以上、目標茎数800～1000本／㎡）
- きめ細やかな追肥で茎数・蛋白値をコントロール（起6kg＋幼4kg＋止4kg基本で葉色を保つ、出穂期の葉色が薄ければ出穂期以降の葉面散布で調節）

目標穂数　600本／㎡
（少数精鋭でしっかり登熟させる）

赤かび病について

- 赤かび病はかび毒を生成するだけでなく、登熟不良も引き起こす
- 多雨条件で発生しやすく、特に高温多雨の時はかび毒を生成する病原菌が蔓延しやすいため注意が必要
- 感染時期は開花時期であり、2回の防除で感染を防ぐ
- 1回目（開花始）シルバキュアフロアブル
- 2回目（1週間後）ベフトップジンフロアブル

「きたほなみ」の栽培ポイント

- 穂水分調査を実施して成熟期を予測しよう。（出穂後30日前後から予測可能→1ほ場から20本程度穂を採取する）
- 成熟期（子実水分40％）以降は1日当たり3％程度水分が低下する（晴天時は5％程度低下することもある）
- 子実水分30％以下で収穫するには成熟期後4日程度かかる
- やむを得ず子実水分30％以上で収穫した場合は乾燥温度に注意する

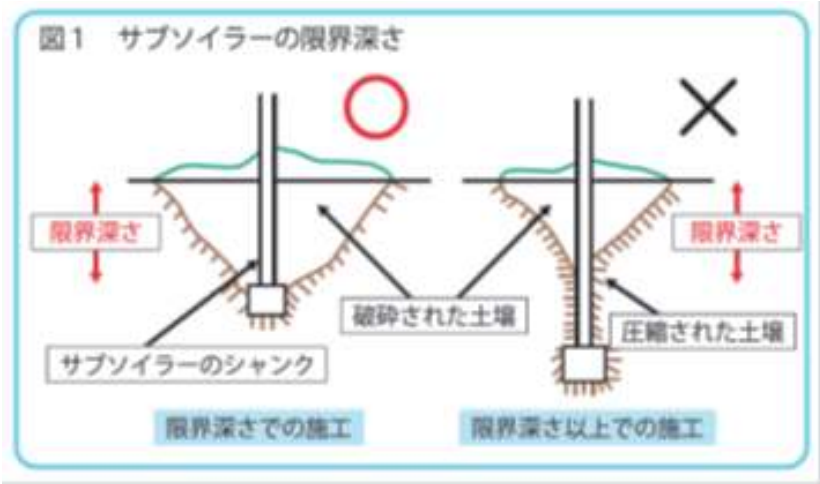
檜山農業改良普及センター北部支所の
～営農技術情報 2015 3 月号～

サブソイラーで排水改善を

大型機械の導入により土壌が固められ通気性や透水性が低下しているほ場が多く見られます。
サブソイラーは固められた土壌を破砕し、ほ場の排水性の改善に効果があります。
有効に活用するため次の点に注意してください。

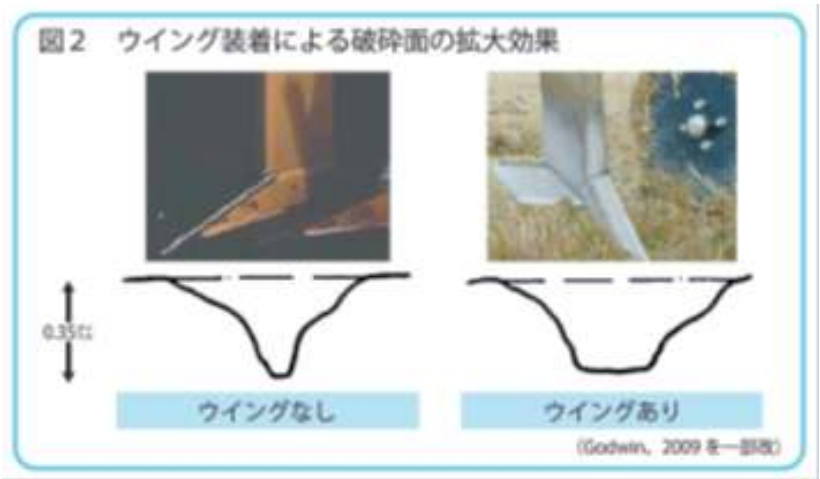
1　施工深さに注意する！

　プラウやロータリーで起こした下に耕盤層(30cm 程度の深さ) が形成されるため、基本的にはそれより深く施工します。
　深すぎると十分な効果が得られなかったり、暗渠を壊す場合があるので注意して下さい。
　また、サブソイラーをかけることでほ場が凸凹になったり、石が上がってくるような場合は状況を見ながら浅くする必要があります。



2　オプションによる効果

　サブソイラーに「ウイング」を装着することで、破砕される範囲が広がります。
　「ウイング」を装着すると、けん引抵抗も増加しますが、高馬力のトラクターを利用することを前提とした場合「作業深さ」を深くするよりも「ウイング」を装着した方が破砕効果の向上が期待できます。
　また、弾丸を装着すると、簡易暗渠の施工ができます。



3　作業速度は時速２～３km を上限に！

　作業速度が速いと砕土効果が高まる反面、水や空気の通り道となるすき間が少なくなり、効果が低下します。
作業速度は、２km/hr 以下の低速が望ましいというデータもありますが、作業効率を優先する場合でも２～３km/hr を目安に作業を行ってください。

4　サブソイラーの使い方

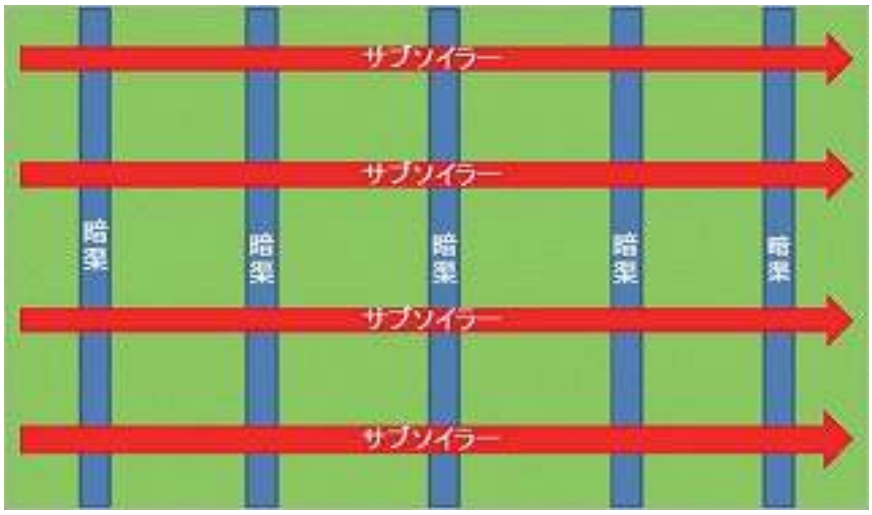
基本は暗渠に対して直角または斜めにサブソイラーが交差するようにかけ、疎水材に水が集まるようにします。

傾斜地の場合は、土壌の流亡を避けるために等高線に沿ってをかけるようにします。

暗渠がない場合は、明渠などに水が逃げるようにかけます。

サブソイラーの効果は約３年程度と言われています。

３年に１度はサブソイラーをかけられるように計画的に作業を進めましょう。



5　作業時の水分

土壌水分が多いと、サブソイラーを使用しても土が軟らかすぎてすぐに戻ってしまい効果が落ちてしまいます。

写真のように土の塊を両手の手の平で転がして、３mm の太さになって切れ切れとなる状態が適正な水分です。

6　サブソイラーと類似の機械

サブソイラと類似の機械に、プラソイラやソイルリフタがあります。

▲プラソイラ

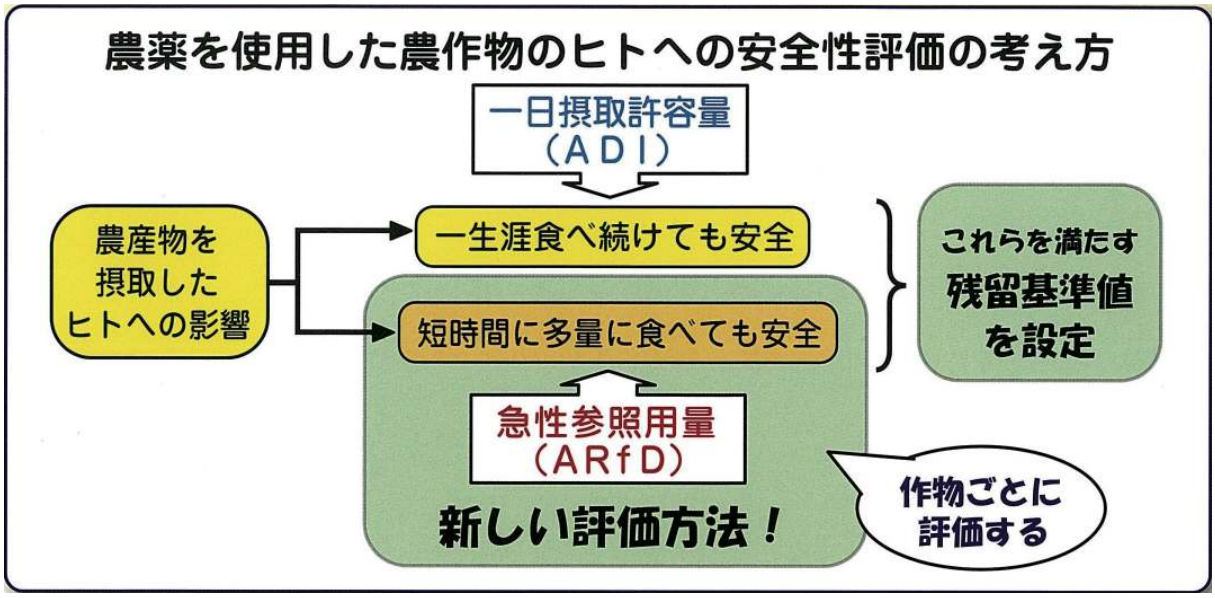
▲ソイルリフタ

これらの機械は、サブソイラのように心土破砕を行うだけでなく、部分的に下層の土壌を表層に持ち上げる効果があります。

サブソイラよりも高い心土破砕、排水、根域拡大効果があります。

農薬を使用した農作物の安全性確保のため
新たな評価方法が導入されます

その農薬を使う様々な農産物を毎日一生食べ続けても健康に悪影響のないこと、さらに、**短時間に多量に食べた場合にも影響のないことも評価・確認し、**農薬の残留基準がこれからは決められていきます。



農薬登録変更の情報を確認し、
変更後の適用内容で使用してください

- 既に使用されている農薬についても新しい評価の導入により適用内容の変更や残留基準値が変更となり、今までよりも使用方法が厳しくなるものがあります。
- 変更後の使用方法にしたがって使用していただくようお願いします。

JAグループ北海道 JA農協　全農　ホクレン

ＪＡ広報いまかね４７３号　平成２７年３月１日発行
◇発行 今金町農業協同組合　◇住所 〒049-4397 北海道瀬棚郡今金町字今金 141 番地
◇電話 0137-82-0212(直通) FAX 0137-82-0854　◇編集 営農部 農業経営課　◇印刷 今金はやし印刷社